

令和元年度に実施した事業の事後評価結果(令和4年度が目標年度のもの)

○水産業強化支援事業事後評価報告書

| 事業実施年度 | 目標年度 | 事業実施主体 | 事業計画の内容 |
|----------|-------|------------|---------------------------------|
| 令和元年度 | 令和4年度 | 三重県 | 種苗生産施設の整備 |
| 令和元年度(繰) | 令和4年度 | 鳥羽磯部漁業協同組合 | 大型ノリ自動乾燥機・大型ノリ自動乾燥機の設置に必要な上屋の整備 |
| 令和元年度 | 令和4年度 | 紀北町 | 小規模漁場施設(つきいそ)の整備 |
| 令和元年度 | 令和4年度 | 御浜町 | 小規模漁場施設(つきいそ)の整備 |

平成30年度に実施した事業の事後評価結果(令和4年度が目標年度のもの)

○水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

| 事業実施年度 | 目標年度 | 事業実施主体 | 事業計画の内容 |
|-----------|-------|--------|------------------|
| 平成29年度(繰) | 令和4年度 | 大紀町 | 小規模漁場施設(つきいそ)の整備 |

水産業強化支援事業事後評価報告書

| | | | |
|----------------|---|---|--------------------|
| | | 三重県 | |
| 政策目的 | 水産資源の持続的な利用・管理の推進 | | |
| 政策目標 | 資源増養殖目標 | | |
| 事業実施主体 | 三重県 | | |
| 実施地区名 | 志摩市 浜島地区 | | |
| 実施期間及び目標年度 | 実施期間 | | 目標年度 |
| | 令和元年度 | | 令和4年度 |
| 交付金額 | 8,486千円 | | |
| 事業計画の内容 | 種苗生産施設 | | |
| 評価 | 成果目標 | アワビ種苗(殻長 25mm 以上)の年間生産数の増加 | |
| | | 現状値 | (令和4年度末時点) 465千個/年 |
| | | 目標値 | (令和4年度末) 669千個/年 |
| | (1) 現状値の説明 | アワビ種苗生産水槽の増設により、アワビ種苗(殻長25mm以上)の年間生産数を82千個/年増加させることを成果目標としているため、令和4年度の種苗生産数を現状値とした。現状値は、既存水槽で365千個、増設水槽で100千個であり、合計465千個/年であった。なお、種苗生産数の実績値は、種苗生産水槽を増設した翌年度の令和2年度では、目標値を上回る703千個であったが、令和3年度は534千個に減少、目標年度の令和4年度には465千個とさらに減少し、目標値を下回った。 | |
| | (2) 地域への経済効果 | アワビ種苗の年間生産数及び放流数が増加し、アワビの水揚げ量が増加することにより、地域の基幹産業であり、観光産業としても重要な海女漁業の収益向上、さらには地域産業の振興につながっている。ただし、前述のとおり、種苗生産数が目標値を下回ったため、地域への経済効果も減少したと考えられる。 | |
| (3) 所見 | 令和3年度及び令和4年度に種苗生産数が目標値を下回った原因は、黒潮大蛇行の影響等により藻場が減少し、アワビの放流適地が減少したことに伴って、種苗放流の要望数が想定よりも少なくなったためである。加えて、高水温化の影響によりクロアワビ親貝の成熟制御が困難となり、予定していた種苗生産数を確保できなかったことも影響している。 | | |
| (4) 評価機関の意見等 | (評価機関の評価を受けた場合に記入) | | |
| 今後の改善方向等に関する分析 | クロアワビ親貝の成熟制御については、令和4年度に成熟状態を保つ水温管理技術マニュアルを作成しており、今後はマニュアルに沿って種苗生産を実施することで安定的な生産が可能になる。また、今後、県や市町が実施する磯焼け対策により、藻場が回復し、放流適地が増加すれば、放流要望数の増加により、種苗生産数も増加すると考えられる。 | | |

水産業強化支援事業事後評価報告書

鳥羽磯部漁業協同組合

| | | |
|----------------|--|--|
| 政策目的 | 水産資源の持続的な利用・管理の推進 | |
| 政策目標 | 資源増養殖目標 | |
| 事業実施主体 | 鳥羽磯部漁業協同組合 | |
| 実施地区名 | 鳥羽市桃取地区 | |
| 実施期間及び目標年度 | 実施期間 | 目標年度 |
| | 平成31年度～令和2年度 | 令和4年度 |
| 交付金額 | 168,884,000円 | |
| 事業計画の内容 | 大型ノリ自動乾燥機 大型ノリ自動乾燥機の設置に必要な上屋 | |
| 評価 | 成果目標 | ノリの生産枚数の増加 |
| | 現状値 | 24,406千枚 (令和4年度末時点) |
| | 目標値 | 39,775千枚 (令和4年度末) |
| | (1)現状値の説明 | ノリの生産枚数は、令和2～4年度の販売枚数の合計値とした。 ・令和2年度：9,976千枚 ・令和3年度：3,505千枚 ・令和4年度：10,925千枚 合計：24,406千枚 |
| | (2)地域への経済効果 (ハード事業のみ) | ノリの不作により成果目標は達成できなかったものの、共同加工施設の整備により陸上での作業時間が削減され、ノリ養殖の規模が257柵増加した。 ・平成25～29年度平均：2,113柵 ・令和4年度：2,370柵 |
| | (3)所見 | 近年、栄養塩不足や海水温上昇などの漁場環境の変化の影響により、ノリの色落ち被害、漁期の短縮などの問題が生じており、養殖生産量が減少したことが、ノリの生産枚数の減少に繋がっている。 |
| (4)評価機関の意見等 | | |
| 今後の改善方向等に関する分析 | 漁場環境の改善のための取り組みの他、現在の漁場環境下でも生産の向上に繋がるようなノリの養殖管理手法等の研究・導入に関係機関と連携して取り組んでいく。 | |

水産業強化支援事業事後評価報告書

紀北町農林水産課

| | | | |
|----------------|--|---|-------------------------|
| 政策目的 | 水産業経営の強化 | | |
| 政策目標 | 経営構造改善目標 | (整理番号)31-5 | |
| 事業実施主体 | 紀北町 | | |
| 実施地区名 | 長島地区 | | |
| 実施期間及び目標年度 | 実施期間 | 目標年度 | |
| | 令和元年度 | 令和4年度 | |
| 交付金額 | 4,818,420円 | | |
| 事業計画の内容 | 小規模漁場施設(つきいそ 自然石1,080m ³)を設置することで、イセエビ等の生息場所を造成する。イセエビは、漁獲量が比較的安定し、価格も高いため当地域で重要な魚種となっている。そのため、本事業によりイセエビの漁獲量の増大を図ることで、今後の安定した漁家経営を実現する。 | | |
| 評価 | 成果目標 | 3か年のイセエビ漁獲金額 | |
| | | 現状値 | (令和4年度末時点) 146,494,572円 |
| | | 目標値 | (令和4年度末) 217,111,414円 |
| | (1) 現状値の説明 | 現状の3か年のイセエビ漁獲金額 =イセエビ漁獲金額(R2)+イセエビ漁獲金額(R3)+イセエビ漁獲金額(R4) =51,072,196円+45,712,269円+49,710,107円 =146,494,572円 | |
| | (2) 地域への経済効果(ハード事業のみ) | イセエビの地元漁港への水揚げが増えることで、地元民宿業者や港市への提供が増え、地域への経済効果につながっている。しかし、目標の漁獲金額が217,111,414円に対して現状値は146,494,572円と目標を下回っているため、地域への経済効果も想定より少ないと考えられる。 | |
| | (3) 所見 | 近年、水揚げ量及び漁獲金額が減少傾向にある。その理由として、黒潮大蛇行の継続による海水温の上昇及び、それに伴う食害生物による摂餌行動の長期化により、イセエビの生息場所である藻場が減少し、資源量も減少したためであると考えられる。また、年々漁業者の数が減少していることも水揚げ量減少の要因と考えられる。 | |
| (4) 評価機関の意見等 | (評価機関の評価を受けた場合に記入) | | |
| 今後の改善方向等に関する分析 | イセエビの生息場所を増やすことができるよう、藻場保全の活動を継続する。現在残っている藻場を守っていくことで、再びイセエビ資源の増加を目指す。 | | |

水産業強化支援事業事後評価報告書

| | | | |
|----------------|---|--|------------------------|
| | | 御浜町 | |
| 政策目的 | 水産業経営の強化 | | |
| 政策目標 | 経営構造改善目標 | (整理番号)31-6 | |
| 事業実施主体 | 御浜町 | | |
| 実施地区名 | 阿田和地区 | | |
| 実施期間及び目標年度 | 実施期間 | 目標年度 | |
| | 令和元年度 | 令和4年度 | |
| 交付金額 | 9,894千円 | | |
| 事業計画の内容 | 自然石投入 2,200m ³ | | |
| 評価 | 成果目標 | 刺網漁業者の所得の増加 | |
| | | 現状値 | (令和4年度末時点) 24,011千円/3年 |
| | | 目標値 | (令和4年度末) 83,981千円/3年 |
| | (1) 現状値の説明 | ◎現状値＝イセエビ漁獲金額(R2-4) =5,878,429(R2)+9,724,185(R3)+8,409,060(R4) =24,011,674円/3年 | |
| | (2) 地域への経済効果(ハード事業のみ) | イセエビの漁場造成によって漁獲量の増加および漁業所得の向上を目指した。しかし、漁場面積の縮小および単価の低迷により漁獲量が減少し、漁業所得も減少した。 ただし、つきいその造成がなければ、漁獲量および漁獲金額はさらに減少したと推測されるため、一定の漁業所得が確保されたと考えられる。 また、つきいその施設管理規定を定め、管理漁場として漁業者とつきいそでの資源管理に取り組んでおり、イセエビ資源の保護や漁業者の資源管理意識の向上が図られている。 | |
| | (3) 所見 | 【漁獲量の減少】 ・漁獲量は、平成23年の紀伊半島大水害による熊野川からの土砂流入及び平成29年からの黒潮大蛇行により、漁場面積が縮小したため減少している。 ・新型コロナウイルスの影響による単価の低迷で出漁を見合わせる者が増加し、出漁日数が減少しているため、漁獲量が減少した。 | |
| (4) 評価機関の意見等 | (評価機関の評価を受けた場合に記入) | | |
| 今後の改善方向等に関する分析 | ・規定体長を下回るイセエビや抱卵しているイセエビの放流を継続することで長期的な漁獲量の増大を図る。 | | |

| | | 大紀町水産課 | | |
|----------------|--|---|-----|------|
| 目的 | 新たに錦地先にイセエビ漁場を整備拡大することで、イセエビが増産され、持続的な地域の水産業の競争力強化に繋げていくこと | | | |
| 目標 | 水産業競争力強化 | 29三重1 | | |
| 事業実施主体 | 大紀町 | | | |
| 実施地区名 | 大紀町錦地先 | | | |
| 実施期間及び目標年度 | 実施期間 | 目標年度 | | |
| | 平成30年度 | 令和4年度 | | |
| 交付金額 | 31,158,000円 | | | |
| 事業計画の内容 | 小規模漁場施設(つきいそ)の整備 | | | |
| 評価 | 取組の目標 (KPI) | 刺網漁業者のイセエビ漁獲高の向上 | | |
| | 基準年 | (平成30年度時点) 57,252千円 | | |
| | 現状値 | (令和4年度末時点) 29,694千円 | 増加率 | △48% |
| | 目標値 | (令和4年度末) 62,982千円 | 増加率 | 10% |
| | 成果目標 | イセエビ漁獲量の向上 | | |
| | 現状値 | (令和4年度末時点) 15,475kg/3年 | | |
| | 目標値 | (令和4年度末) 41,055kg/3年 | | |
| | (1) 現状値の説明 | 年間イセエビ漁獲量 (R2~R4合計) (R2) 6,984kg + (R3) 5,526kg + (R4) 2,965kg = 15,475kg | | |
| | (2) 地域への経済効果 | イセエビ漁場の整備により、イセエビの漁獲量の向上を目標 (41,055kg/3年) にしていたが、現状では計画時から漁獲量は毎年減少している状況 (15,475kg/3年) である。 漁獲量が減少している原因としては、漁業者の減少、海水温上昇や黒潮大蛇行等の海洋環境の変化が考えられる。 ただし、漁業者の高齢化が進行する中でも操業に不安のない地点につきいそを整備したことで、漁業者の労働環境改善に寄与している。 | | |
| | (3) 所見 | 令和4年度におけるイセエビの漁獲量は、目標の41トンに対して実績が15トン弱と著しく減少し、目標を達成することができなかった。 漁獲量が減少した要因としては、①高齢化による刺網漁業者数 (計画時: 36人⇒令和4年度: 28人) の減少や、荒天での漁休みが増えたことによる漁業者1人当たりの年間操業日数 (計画時 110日⇒令和4年度: 61日) が減少したこと、②黒潮大蛇行により冬場の海水温が下がらず漁場に海藻類が育たない等の影響で、イセエビの資源量が減少していることが考えられる。 なお、混獲される稚エビ (H30: 8,679尾、R1: 4,544尾、R2: 3,346尾、R3: 2,499尾、R4: 2,453尾) も年々減少していることから、資源量が減少していると推測される。 | | |
| (4) 評価機関の意見等 | | | | |
| 今後の改善方向等に関する分析 | イセエビ資源の減少が懸念されるため、再放流する稚エビのサイズを大きくすることや、他地域で取組まれているイセエビコレクターなどを参考とし人工的に稚エビの住処を設置することによりイセエビ資源の増大を図る。 | | | |

事後評価報告書（個表）別紙資料

・評価

- (1) 現状値の説明 刺し網漁業漁獲金額・・・(出典：漁協資料)
経費率・・・(出典：漁協資料)
- (2) 地域への経済効果 現状値・・・(出典：漁協資料)
- (3) 所見 (出典：漁協資料)、(出典：刺し網漁業者聞き取り)